〝音斎人〝新聞

謹賀新年

〝音斎処〝も今年で四年目を迎えます。

女城主の里・岩村のお城に向かう道筋から少し入った、無住の館となった安田邸を会場として、レコードコンサートを始めたのは私の全くの思いつきでした。

始まりの年には、春と秋のお祭りにあわせての開催で、平時に訪れてくださった方にはご迷惑をおかけしました。そんな中、地元岩村で〝音斎処〝開催に協力していただける方と知りあい、一昨年（2016）春から毎月一回開催を始めました。

当初は開催日を固定しないでの月一回開催でしたが、予想以上に楽しみにしてくださる方が多いことがわかり、予定に組みやすい月一回第四土曜日の開催に改めたのが一昨年の六月からでした。

そして昨年（2017）は、〝音斎処〝の基礎を作ってくださった「ドラムもたたける農業家」佐藤さんのジャズ講座を皮切りに、三月から十一月まで計十回の開催を行うことができました。

昨年の目標は『継続開催』でしたので、目標も達成できました。これも一重に支えてくださる皆様のおかげです。本当にありがとうございます。

〝音斎処〝にいつもおいで頂いている方はご存知のことですが、安田邸は音の環境はすごく良いのですが、実は観賞環境としては決して良いとは言えないのが難点です。殊に冬場は、山城として有名な岩村城の在る場所だけに、その気温の低さは音楽鑑賞には決して向いていないのです。それ故、例年十二月から翌年二月までの冬季は『冬眠』と称して開催を断念しております。

今年の目標は『住環境の改善』を掲げております。

今年（2018）は、NHK朝の連続ドラマで「半分青い」が放映されます。ご存知の方も多いと思いますが、このドラマのロケ地として岩村の街並みが使われました。そんなこともあり、この春以降暫くは岩村を訪れる観光客も従来より多くなると思います。こうした機会に〝音斎処〝の存在も広めたいと思っています。

もう一つの今年の目標は『ピーター・バラカン　出前DJ』の招聘です。これは、ピーター・バラカン氏をお招きして、〝音斎処〝安田邸でレコードコンサートを開催しようと云うことです。

この企ての中心点は、日頃〝音斎処〝開催に協力していただいている方々の多くが、私の妻と同じく昭和三十三年「戊戌」年生まれで、今年還暦を迎えられました。そこでピーター・バラカン氏をDJとしてお迎えし『還暦記念レコードコンサート』を開催したいということです。

私自身が還暦を迎えた2014年に、明知鉄道の動く気動車を使って還暦レコードコンサートを開催しました。その開催告知をピーター・バラカン氏の当時の番組内で『レコード列車の旅』として紹介していただきました。その結果、番組を聴いた五人の方（全くの初見）が開催当日明智駅に集まってくださり、『レコード列車の旅』に参加してくださいました。そんなご縁もありこのレコードコンサートは是非実現させたいと思います。

三つ目、そして今年の目標の最後は、収益化です。

といっても〝音斎処〝は元来営利目的でやっているわけではありません。ほっておけば廃棄されてしまうレコードをきちんと手を入れて聴くことによって次世代に繋げられないかという夢のような思いから始めたことです。まぁそれ以上に単純に今まで聴いたことのないレコードを聴いてみたいという私の願いから出発しています。従って、〝音斎処〝には入場料の類いはありません。

現在の〝音斎処〝は基本的に手弁当でやっています。自分たちのやりたいことを自分たちのできる範囲で力を出しあってやっていく、というのがいつからかの暗黙の約束になっています。従って、補助金だの助成金だのの援助や支援は一切受けていませんし、これからも受け

ようとは思っていません。とはいえ、そんな強がりともいえることだけでは継続もできないのは実情です。そこで〝音斎処〟ではドネーション（寄附）を募っています。

現在のドネーションのあり方はこんな感じです。

〝音斎処〟では来訪者に紙コップでドリップコーヒーを提供しています。この時に一杯百円以上のご寄付をいただくようにお願いしています。紙コップ代として百円を寄附していただくようにしているのですが、勿論寄附されなくてもお出ししています。

また〝音斎処〟でかかったレコードが気に入って、或いはこうして開催していることに共感されて「良かったよ」「また来たいです」というお言葉とともに何がしかのご寄付をいただくこともあります。

こうしていただいたご寄付のほとんどを安田邸の住環境整備に使っています。

それに住環境整備自体が、地元岩村の大工さんによりほとんど無償で行われているものでもあります。

こんな感じのゆる～いやり方ですが、今年は一つグッズをと考えています。

それが〝音斎処〟手拭いです。

一定額以上のドネーションをいただけた方にこの〝音斎処〟手拭いを差し上げようと考えています。

私自身が勝手に描いたデザインは別として、手拭い自体は伝統の注染で仕上げられています。東京・代官山にある手拭いの老舗『かまわぬ』にお願いしたものです。

岩村の「女城主」の暖簾にならって妻の名前も染め抜いてあります。

これでどれ程のドネーションが集まるかはやってみないとわかりませんが、ひとまずこのグッズで収益化を図ってみたいと思います。

これは「〝音斎処〟手拭い」の元になっているデザイン画です。素人である私自身が描いているので、けっして褒められたものではありませんが、自分なりに〝音斎処〟の目差している処を表していると満足しております。

プロは決してデザインの意図などを説明したりしないそうですが、素人なのでご勘弁をいただいて、少し説明を・・・・。

全体は岩村の街並みをイメージした日本古来の意匠である「青海波」

全体を横切る直線三本は回転するレコード盤を、赤の五本の線はレーザーターンテーブルの五本のレーザー光と針式カートリッジの外形を同時に表しています。

この基本デザインを元に、「かまわぬ」にて注染をお願いしましたが、その技法の制約によりデザイン画とは若干違った仕上がりになりました。

勿論プリント染色であればこの原画通りの物を仕上げることも可能ですが、やはり〝音斎処〟の主旨からどうしても注染という技法で仕上げたかったのです。

さてこのデザインがどんな仕上がりになったのかは、〝音斎処〟にてご覧いただけますので、是非〝音斎処〟にお出かけいただきたいと思います。

尚、一月に予定されている〝音斎人〟と岩村の皆さんとの交流会を兼ねた新年会では、〝音斎処〟グッズとして発表をしたいと思います。

それでは皆さん本年もよろしくお願いします。

第　六　号

発　行　◇平成３０年１月１日

発行人◇〝音斎処〟主催者

横田　文孝

お問い合わせは下記アドレスへ

On-Site@tajimiyori.com